

西光寺だより

第五十九号 平成二七年七月一日発行

夏の夜空に満天の星が輝く頃となりました。街の灯りのもとではなかなか感じられませんが、街灯もない真つ暗な場所で夜空を見上げると、空にはこれほど星の数があつたのかと驚かされるほどたくさんの星たちが輝いています。そして、辺りが暗ければ暗いほどその光はいつそう輝いて美しく見えます。まだ夜が暗闇だった時代、夜空を見上げて星を数え名前をつけた人間たちの気持ちが分かるような気がします。

七夕でいわれる天の川も無数の星の集まりです。実際に見られたことのある方は少ないのではないかと思います。肉眼で見ると本当に夜空を流れる光の川のように見えるそうです。きっと神秘的な世界でしょうね。

しかし、そんな美しい天の川も宇宙の視点からすると、実は円盤のような光の輪の一部に過ぎないらしいのです。しかも、光の輪の中には太陽も私たちのいる地球も含まれています。ですから太陽も地球も、別の星から見るとまた違った天の川の光のひとつです。今いる地球が天の川の光のひとつだとすると、その川はどんな風に見えるのだろうかとなんだか不思議な気持ちになります。きっと私たちから見えるものとは違った光の川をつくっているのでしょうね。

たくさんの星が見られるこの季節、夏休みの子供のように好奇心いっぱいの眼差しで夏の夜空を見上げてみたいと思います。ここから見える星の数は知れているかもしれませんが、それでも果てしなく広い宇宙に思いを馳せ、宇宙空間を創造してみるのも面白いかもしれません。ふわりと空にまいあがり、恐ろしく広大な暗闇にある無数の星の存在を知る。ひとつ、ひとつ、輝いている。そしてその中から地球を見つけたとき、きつと愛おしくてたまらない気持ちになるような気がします。私たちのいる場所。今ある命。全てを包み込みたくなるのではないかと。皆様の想像の宇宙の旅はいかがでしょう。



夜空を渡る天の川



衛星から見た地球

◆七・八月の行事◆

・八月十五日(土)

孟蘭盆会法要

午後六時

西光寺本堂

●今月のことば●

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

この本をご存じでしょうか？
最近、メディアでも絶賛されていた絵本ですので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

これは、2012年、ブラジルのリオデジャネイロで環境が悪化した地球の未来について話し合う国際会議で、南米の国ウルグアイのムヒカ大統領の演説を日本で絵本にしたものです。人類の幸福とは何か、深く問いかける絵本となっており、皆様にもご紹介したいと思いい、一部を抜粋して掲載させていただきました。

もし機会があれば、ぜひ一度手にとってご覧になってみて下さい。

・・・(略)・・・きょうの午後ここでずっと話されていたことは、人類がこのさき、地球の自然と調和しながら生きていくにはどうしたらよいのか、そして世界から貧しさをなくすにはどうしたらよいのかということでした。しかしいっぽうで、わたしたちの頭には何がうかんできているでしょうか。もつと豊かになつて、ほしいものがどんどん手に入る、ゆうふくな社会を望んでいるのではないのでしょうか。

・・・(略)・・・人より豊かになるために、情けようしやのない競争をくりひろげる世界にながら、「心をひとつに、みんないっしょに」などという話ができるのでしょうか。だれもが持っているはずの、家族や友人や他人を思いやる気持ちは、どこにいつてしまったのでしょうか。

・・・(略)・・・人の命についてはどうでしょうか。すなおに考えてみましょう。わたしたちは発展するためにこの世に生まれてきたのではありません。この惑星に、幸せになろうと思つて生まれてきたのです。人生は短く、あつというまです。そして、命よりも大事なものはありません。命は基本的なものです。しかし、必要以上にものを手にいれようと働きづめに働いたために、早々に命がつかせてしまったら・・・？

古代の賢人エピクロスやセネカ、そしてアイマラ民族は、つぎのよう

に言いました。

「貧乏とは、少ししか持つていないことでなく、かぎりなく多くを必要とし、もつともつとほしがることである」

このことばは、人間にとつて何が大切かを教えています。

わたしは、この会議でみなさんが努力し、意見をまとめようとして

おられることに敬意を表したいと思つています。・・・(略)・・・しかし、知らなくてはなりません。水不足や環境の悪化が、いまある危機の原因ではないのです。ほんとうの原因は、わたしたちがめざしてきた幸せの中身にあるのです。見直さなくてはならないのは、わたしたち自身の生き方なのです。

・・・(略)・・・わたしが話していることは、とてもシンプルなことです。社会が発展することが、幸福をそこなうものであつてはなりません。発展とは、人間の幸せの味方でなくてはならないのです。

人と人とが幸せな関係を結ぶこと、こどもを育てること、友人をもつこと、地球上に愛があることー

こうしたものは、人間が生きるためにぎりぎり必要な土台です。発展は、これらをつくることの味方でなくてはならない。

なぜなら、幸せこそがもつとも大切な宝だからです。人類が幸福であつてこそ、よりよい生活ができるのです。わたしたちがよりよい生活をするためにたたかうとき、これをおぼえておかなくてはなりません。

これでわたしの話は終わりです。ありがとうございました。

仏教では人間の持つ苦しみのひとつに「求不得苦(ぐふとくく)」(欲しいものが満たされない苦しみ)というものがあります。そしてそこから抜け出すには、その現実を直視すること、と説かれています。この絵本をきっかけに、いま一度、自分の生き方を見つめる必要があるのではないかと感じました。

皆様はどのように感じられたでしょうか。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>